

# 初めてでも迷わない周遊観光を目指して -飛鳥地方におけるナンバリング実験について-

田中 富博<sup>1</sup>・三井 雄一郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup>近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所 管理課 (〒520-2279滋賀県大津市黒津4丁目5番1号)

<sup>2</sup>国土交通省都市局 都市政策課 大都市戦略企画室 (〒100-8918東京都千代田区霞が関2-1-3)

国営飛鳥歴史公園事務所では、飛鳥地方に設置するサインの基本的な形・色、表記内容・書体等を統一的に示した「国営飛鳥歴史公園サイン計画」(以降、「サイン計画」という)の策定を2001年に行った。同計画の策定から10年を経て、公園の新規箇所の供用が近づいた点、関係法令や基準の改正、策定などがなされている点などを踏まえ、サイン計画の更新を行うとともに、新たな取り組みとして景観への配慮を行いつつ、比較的安価で手早く展開することが可能であると思われる「ナンバリング」実験を行った。本稿ではこれらの取組について報告を行うものである。

キーワード 周遊観光、公園、地域計画、サイン計画

## 1. はじめに

飛鳥地方は、我が国の律令国家体制が初めて形成された飛鳥時代の中心地である。飛鳥地方の位置する奈良県高市郡明日香村は、わが国往時の政治、文化の中心等として歴史上重要とされている「古都」としての指定を受けており、特に明日香村は村域全域が歴史的風土の保存対象となっている日本で唯一の市町村であり、建築物、工作物の整備に際しての規制などの各種の保存施策が講じられてきているところである。

遺跡等の歴史的資産や、良好に保存されている景観を求め、日本国内のみならず、韓国、中国の他、欧米の各国から観光客が訪れており、年間の来訪者数は100万人程度で推移している。また、来訪目的に関するアンケートによれば、「史跡の見学」や、「風景を楽しむ」など、村内を散策・周遊する形態の目的が上位を占めている。

一般的に、観光地における来訪者の案内手法は、サインを含む案内板、来訪者が手にするマップなどの案内図、その他最近では電子媒体も数多く活用されるなど、多種多様なものとなってきている。本稿では、立地上の性質から景観上の配慮が必要である点も踏まえながら進めている取組について報告を行う。

## 2. サイン計画について

国営飛鳥歴史公園は、飛鳥の歴史的風土を保存し、活用を図っていくよう、村内の5箇所を拠点的に位置して

いる。(図-1) 1976年の祝戸地区の供用をはじめとして、石舞台地区、甘樫丘地区、高松塚周辺地区が供用されており、現在、2016年度の供用を目指して、キトラ古墳周辺地区の整備を進めているところである。

現在供用されている4地区が概成し、供用を開始したことも踏まえ、関係機関及び有識者との会議を経て、2001年にサイン計画の作成を行った(表-1)作成に際しては、飛鳥地方が、景観への配慮が必要であることや、園内のみならず飛鳥地方全体を周遊する形で観光する来訪者が多いという特徴を踏まえ、計画の対象区域を公園内のみならず、飛鳥地方全体を対象とするとともに、その基本的な形・色、表記の内容・書体等デザイン面の統一を図り、一つの歴史的観光エリアとしての認識性を高めることに配慮した。



図-1 公園位置図

表-1 サイン計画（2001）の概要

飛鳥地方サインシステム 【飛鳥地方全体を対象とした内容】 ○地図上で施設等を説明する広域サイン，目的地周辺で誘導を行う誘導サイン，個別の施設を説明する記名サインなど，レベル分けをした飛鳥地方全体のサイン計画 ○外国語表記，ピクトグラム例など  【公園のみを対象とした内容】 ○個別サインの基本的なデザイン例や標記内容など
--



図-2 整備されたサイン



図-3 維持管理用サイン

### 3. サインの整備状況と問題点などの把握

#### (1)整備状況と問題点について

園内については，過年度に策定されているサイン計画に基づき，図-2のとおり概ね整備済みである。しかし，図-3のように維持管理に際して，至急設置すべき内容で一時的に整備したサインについては，サインの基本的な形・色，表記の内容・書体等デザイン面で計画と異なっているものがあつた。統一を図れていないことが課題となっている。

一方で，飛鳥地方全体としても，サイン計画の策定（2001年）より前に整備されていたサインについて，デザイン，材質，表記言語などの面で，計画と整合していないものも残されており，今後の再整備時などに随時計画に整合した整備がなされることが望まれる。

#### (2)サイン計画に関連する事項の確認

現地での整備状況に加え，計画の策定から10年が経過し，関係法令や基準の改正や策定等がなされていることや，類似事例の中で先進的な取組がなされていることから，これらについて確認を行った。

#### (3)利用者アンケートの実施

サイン計画の更新に際しては，飛鳥地方全体の案内に関して，公園，駅，観光案内所などで配布しているマップと現在設置されているサインを対象に，以下の項目のアンケート調査を実施した。

問1 移動の際に活用した案内情報はどのようなものですか。 1. 公園内や路上に設置されているサイン 2. 案内所等でもらったマップ 3. 市販のガイドブック
---

結果：主に使用されているマップは6種類以上にわたっており，また，案内内容も異なっていることがわかったため，これらの統一を図ることが出来るよう取り組む必要があると考えられた。（図-4）

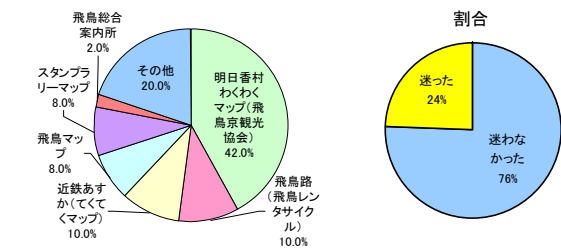


図-4 使用されていたマップ

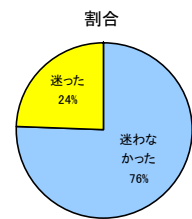


図-5 迷わず到着したか

問2 活用した案内情報で迷わず目的地にたどり着きましたか
------------------------------

結果：マップとサインを活用しても，2割の利用者が迷ったとの回答がなされた。（図-5）また，自由回答として，「現在地がわからなくなった」，「分かれ道にサインが少なすぎる」などの意見が寄せられた。

### 4. 整備状況を踏まえた対応

3. における整備状況や問題点などを踏まえ，サイン計画について，再び会議形式により，計画そのものを以下の観点で更新を行った。







#### (1)維持管理に関するサインについてのルール化

維持管理に際して，至急設置すべきサインの内容について，図-3のように禁止事項の周知や，安全に関する注意喚起を行うためのサインであるため，デザインなどの点で景観のみを考慮するだけでなく，管理とのバランスをとるよう配慮事項を設けながら，新たにルール化を行った。（図-6）



図-6 維持管理用サインの整備イメージ

表-2 サイン計画へ追記及び修正した内容

基準など	項目	追加・修正した内容
① ②	設置基準の追記	○サインの構造を車いす使用者にとってわかりやすい位置、高さなどとする点 ○サイン周辺の床面は、平坦で固くしまっていてぬれても滑りにくい仕上げとする点 など
③	ベース色の変更	「濃茶」とする点
④	ピクトグラムの表示の統一	寺院  →  休憩所  →  火気厳禁  → 

(2)関係法令や基準との整合

サインに関する関連法令や基準の内、当初計画策定時から改正や策定がなされたものは、①「高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」、②「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」、③「明日香村景観計画(明日香村)」、④「観光案内サイン整備ガイドライン(奈良県)」であったので、計画の更新に合わせて整合をとるように整理した。(表-2)

(3)類似事例等を参考とした外国語表記の追加

類似事例の調査を踏まえ、これまでの計画において、日本語、英語、ハングルの表示を標準としてきたものを、中国語(簡体字)を加えることとした。ただし、日本語と中国語が似通っている場合などについては、割愛できることとした。

(1)~(3)を踏まえ、図-7に改訂した計画を反映したサインの例を示す。

(4)アンケート結果を踏まえた対応

3. (3)のアンケート結果を踏まえ、「現在位置がわかりにくい」等の意見に対応するため、現地にあるサインと来訪者が手にするマップとの間に関係性を持たせる手法について検討することとした。

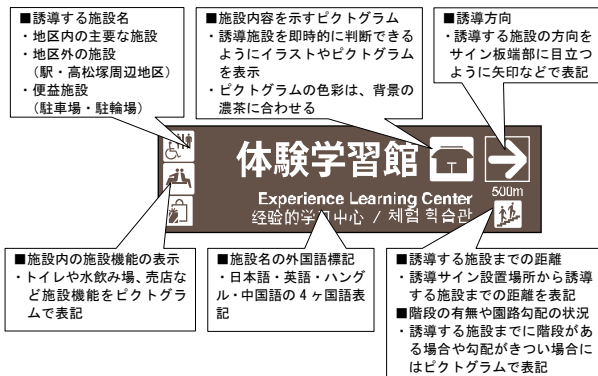


図-7 改訂後の計画を反映したサインの例

5. ナンバリング実験の実施

4. (4)を踏まえ、安価で実現可能な方策でもあることから、「ナンバリング」の実験を行うこととした。

(1)ナンバリングとは

マップにおいて分岐点にナンバーを記載し、現地の案内板とマップを照らし合わせ、案内のわかりやすさを向上させる手法であり、現在鉄道や様々な公共施設などで使用されている(図-8)。

なお、複数種類のマップが作成されている点、マップに記載されている情報が統一されていない点を踏まえ、今回の取組に際してはマップ統一化へのたたき台となるよう案を作成し、実験時に使用している。

(2)実験内容

実験は、ナンバリングによる目的地への誘導のわかりやすさを確認するとともに、将来的なナンバリング設置の有用性を確認することを目的とし、以下の条件で実施した。

- 日時：2012年1月21日(土) 10:00~16:00
- 参加者：飛鳥地方を訪れたことがほとんどない方
- 参加者属性：男性42%、女性58%、18歳以下2名、19歳~39歳17名、40歳~59歳5名、60歳以上2名
- 実験方法：決められたスタートから目的地まで、参加者が一人ずつ、マップとサインを頼りに自身の現在位置を確認しながら進み、到着後ナンバリングの使いやすさ、わかりやすさ等について、アンケートを実施した。

なお、実験の対象範囲の設定に際しては、飛鳥の散策・周遊する形態の来訪者を意図した。これらの来訪者は、自動車利用以外では電車利用により飛鳥地方にアクセスし、その後徒歩または自転車で村内を巡る形式が一般的であるため、図-9のとおり、近鉄飛鳥駅をスタートし、高松塚周辺地区経由し、石舞台地区の休憩所を目的地とする形で実施した。なお、この間は約6キロで、経路が分かっていたら約70分で歩くことが出来る距離である。



図-8 事例：大阪市営地下鉄の路線図

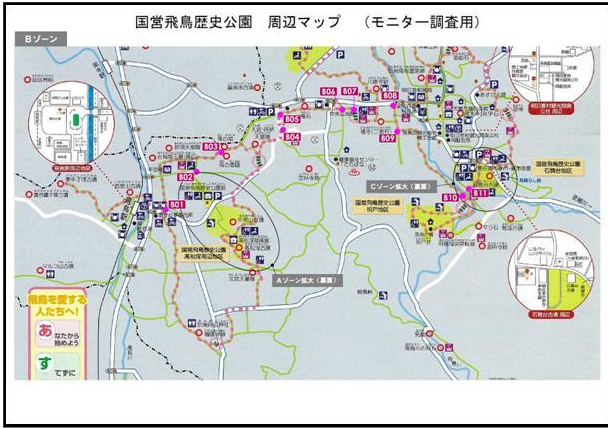


図-9 モニター用のナンバリング全体地図

(3)実験参加者へのアンケート

実験後、以下の内容についてアンケートを行った。

- 問1 目的地へ移動に際し、ナンバーを活用してわかりやすかったですか。
- 問2 問1でそのように思われた理由を教えてください。
- 問3 目的地へ移動する際に「迷った」と感じた場所がありましたか。あった方はその場所を地図上に記載して下さい。また、そのときの状況や理由を教えてください。
- 問4 今後、ナンバーの設置は必要だと思いますか。

結果：目的地へ移動に際し記号・番号を活用したことにより、図-10のとおり「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」という回答が約81%に上った。

「わかりやすかった」理由としては、「ナンバーを確認することで現在地がわかった」や「今どこにいるのがすぐ分かり、地図とあわせて見やすかった」などが寄せられた。

一方で、「わかりにくかった」の意見は約15%あり、理由はナンバーがあまりにも目立たない色と大きさだった。分かれ道に案内板とナンバーがあるとは限らない」などの意見が寄せられた。

また、図-11のとおり、ナンバーの設置は「必要と思う」という回答が約96%に上った。

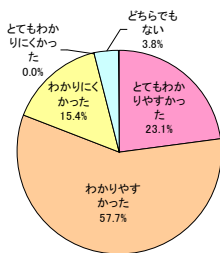


図-10 ナンバーの活用

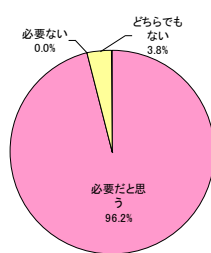


図-11 ナンバーの必要性

参加者への聞き取りから、比較的少なかった「分かりづらい」という意見の背景に、サインの配色、大きさ、設置位置などが影響していることが伺われた。この点については、サイン計画の考え方との整合等も含めて、今後の課題が残った。

配色について：黒地・白文字・白枠であったため目立たなかったとの意見が多かったものの、目立たせるために赤色や黄色を使用することは、周辺との調和の観点から難しい。

大きさについて：サイン計画を基に150mm×150mmで作成し、設置したものの、目立たなかったと意見が多かったものの、案内表示の文字とのバランスもあり表示位置で対応することも考えられる。

設置位置について：今回は、既存サインの支柱にくくりつけていたため目立たなかった可能性がある。本実験では、簡易な手法で行ったものの、支柱の上部に取り付けるなどの工夫をすれば対応が出来ると思われる。

6. まとめ

サイン計画の更新について関係機関と議論を行った結果、関係機関が発行しているガイドライン等についての詳細な意味合いなどについてやりとりを行い、更新に反映することが出来た。ナンバリング実験についても、「安心感を与える良い考えである」「飛鳥地方全体で取り組めば使えるものになるのではないか」「観光客が非常時に場所を伝えることに使えるのでは」など意見を得ることが出来、サイン計画の更新と合わせて、異なる側面から飛鳥地方という同じフィールドを対象とする関係機関と情報を共有でき、有意義であった。

また、ナンバリング実験そのものについては、地方全体で取り組むことによりその効果が高まるものであり、今回の実験やその後の会議による情報共有は、そのきっかけとなり得る内容であった。整備内容や関係機関との連携に際しては課題が残るものの、飛鳥地方への周遊を目的とした来訪者に初めてでも迷わない環境を提供するため、ハード・ソフト両面から引き続き関係機関との連携の上で対応していくこととしたい。

謝辞：国営飛鳥歴史公園サイン計画に関する会議への出席者並びにナンバリング実験実施に際しての協力者の皆様にこの場をお借りして感謝いたします。

※ 本論文は著者の前所属（国営飛鳥歴史公園事務所）の所掌内容を課題として作成したものである。